

# 平成 24 年度新潟市防災会議 第 3 回 津波対策専門会議

日時 平成 24 年 11 月 26 日 (月)

午後 2 時から 4 時まで

場所 新潟市役所 本館 3 階 本部会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 事

(1) 今後の検討課題について

(2) 津波避難地図について

(3) その他

### 3 閉会

#### 配布資料

新潟市防災会議 津波対策専門会議 委員名簿

津波対策専門会議 座席表

資料 1 新潟市の津波対策について

新潟市津波避難地図 (素案)

## 新潟市防災会議 津波対策専門会議 委員名簿

分類	委員種別	所属 役職	氏 名	備考
学識経験者	専門委員	新潟大学危機管理室 教授	田村 圭子	
	専門委員	新潟大学災害・復興科学研究所 助教	井ノ口 宗成	
地域住民の代表	防災会議委員	北区自治協議会 委員	高谷 行雄	
	防災会議委員	東区自治協議会 委員	五十嵐 初司	
	防災会議委員	中央区自治協議会 委員	藤田 孝一	
	防災会議委員	西区自治協議会 委員	小柳 武	
地域団体	防災会議委員	にいがた女性会議 運営委員	高橋 美和子	
防災関係機関	専門委員	北陸地方整備局 総括防災調整官	市村 幸晴	
	専門委員	新潟県警察本部 警備部参事官 警備第二課長	伊嶋 正	欠席
市関係部署	防災会議委員	新潟市消防局 局長	松田 文博	
	専門委員	新潟市都市政策部 部長	井村 久行	





# 新潟市の津波対策について



危機管理防災局



## 1 国等の状況

### (1) 国の状況

#### 中央防災会議

- ・東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告(H23年9月28日)
- ・防災基本計画の修正 津波災害対策編の新設(H23年12月27日)
- ・防災対策推進検討会議 最終報告(H24年7月31日)

等

### (2) 県の状況

#### ・新潟県津波対策検討委員会

津波浸水想定 of 発表(H24年6月26日)

報告書(案)(H24年11月16日)

- ・地域防災計画(津波災害対策編)の策定(H25年3月予定)



## (3)新潟市のこれまでの取り組み

- ・津波避難ビルの指定(拡大)  
浸水区域内の市施設や民間ビル  
を津波避難ビルとして指定

津波避難ビル 78施設(H24.10現在)

- ・地盤高図の作成・公表

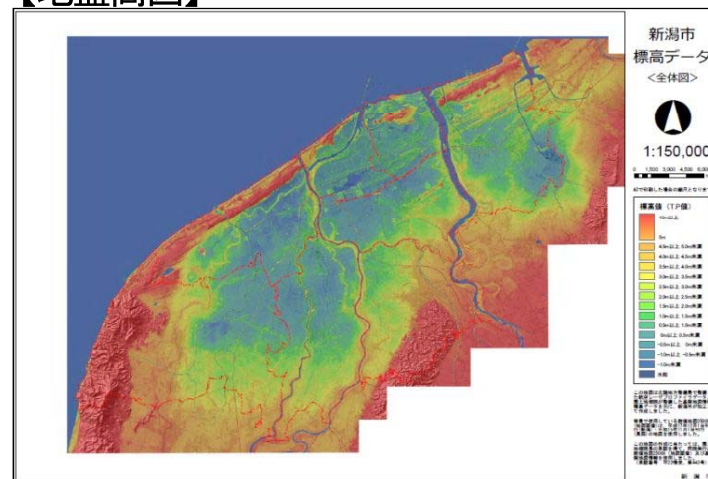
災害時に安全に避難するために、  
自宅周辺の地盤高をあらかじめ  
把握できるよう公開

- ・津波避難地図予備調査

避難地図に求められる項目の調査



【地盤高図】





## (3)新潟市のこれまでの取り組み

- ・地域防災計画の見直し(平成24年4月)

津波対策編の新設

津波避難ビルの指定や津波ハザードマップの作成などの住民の緊急避難に関する対策を強化

- ・情報伝達手段の強化

緊急告知FMラジオなど住民に対する情報伝達手段の強化

- ・海拔表示ステッカーの設置

浸水区域内の避難所などの公共施設への海拔表示ステッカーの設置

- ・津波対策専門会議の設置

【海拔表示ステッカー】





## 2 今後の検討課題について

- 津波の特性を踏まえた避難方法について  
到達時間を考慮した避難のあり方と周知  
木造家屋における垂直避難
- 要援護者の避難 ～自動車の活用について  
避難の原則は徒歩 利用についての地域ルール  
避難支援者の安全確保 限られた時間内での支援
- 津波避難地図の活用方法や啓発について  
地域や学校教育での活用方法
- 情報伝達手段の強化  
同報無線や緊急告知FMラジオの拡充  
等





## 3 これまでの取り組みと今後の予定



H24. 4月 市地域防災計画 津波対策編の新設

H24. 6月 県津波浸水想定公表(中小河川除く)

H24. 9月 津波避難ビルの指定拡大  
海拔表示ステッカーの市施設への設置

H25. 3月 市津波避難地図の公表(中小河川除く)  
県津波浸水想定公表(中小河川)  
県地域防災計画(津波災害対策編)の策定

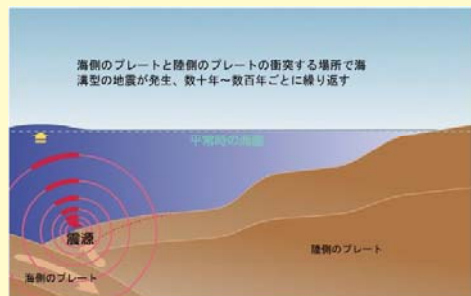
H25年度 津波避難地図策定(中小河川含む)  
津波避難地図の配布  
市津波地域防災計画(津波対策編)の充実

※中小河川に係る浸水想定や、平成25年度予算によっては見直しもあり

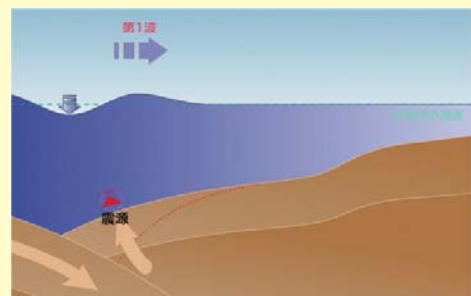
# 津波発生のしくみ

海底の地下で地震が起こると、断層の運動により海底の地盤が隆起したり沈降したりします。この海底の変形に伴って海面が変動し、津波の原因となります（海溝型地震の場合）。

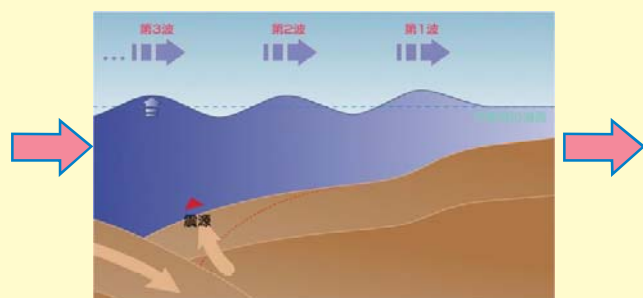
①地震により海底が上昇しそれにより海面が上昇する。



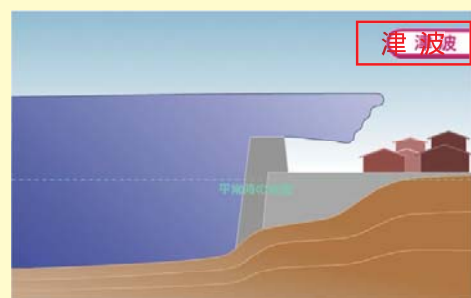
②海面の上昇に伴い第1波が発生する。



③第1波に続き第2波・第3波が発生。繰り返し襲う。



④津波の到達。海岸近く（水深が浅く）になると波高が高くなる。



# 想定される津波と避難行動

（海岸部集落地域・低平地浸水地域・河川遡上地域の特徴と避難対応の説明を記載）

<p>海岸部集落地域</p> <p>イラスト</p>	<p>低平地浸水地域</p> <p>イラスト</p>	<p>河川遡上地域</p> <p>イラスト</p>
----------------------------	----------------------------	---------------------------

津波警報を待たずにすぐに高台へ避難

近くに高台がない場合は津波避難ビルなどの3階以上へ避難

# 津波に関する情報に注意！

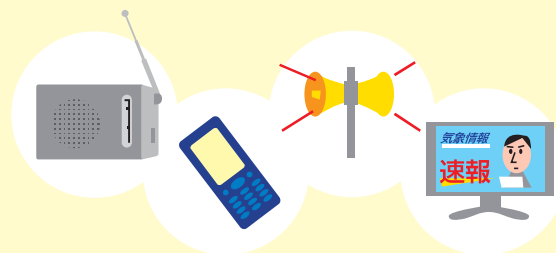
※気象庁改善提言（案）

気象庁では津波による災害の発生が予想される場合に、津波警報（大津波、津波）または津波注意報を発表します。沿岸部での地震では、津波が警報の発令より早く到達することがありますので、ご注意ください。

種類	解説	発表される津波の高さ	
津波警報	大津波	高いところで5m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください。	5m、10m、10m以上
	津波	高いところで3m程度の津波が予想されますので、警戒してください。	3.0m
津波注意報	高いところで1m程度の津波が予想されますので、注意してください。	1.0m	

# 防災情報の入手先

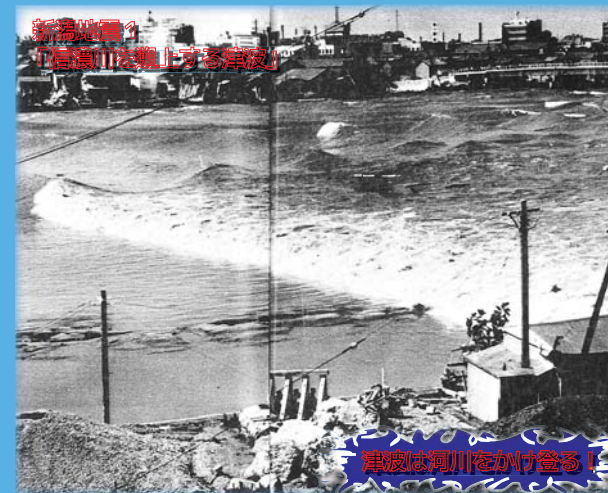
市では、緊急告知FMラジオ、同報無線、にいがた防災メール等で、地震や津波に関する情報や避難勧告等の緊急情報を、市民の皆さまへいち早くお伝えします。その他、テレビ・ラジオ、広報車・消防車からの防災情報に注意して、避難に備えましょう。



# 新潟市津波避難地図 中央区・〇〇地域版

平成24年度

## 過去の災害からの教訓



## 「我が家の避難地図」を作らしましょう

- ① 家族で話し合っ、自宅や普段よく行く場所（学校や会社）の位置を探して印をつける。
- ② ①の場所から一番近い避難ビルや避難場所に印をつける。
- ③ 津波が来る方向から遠ざかるような避難方向・避難経路を考える。
- ④ 実際に歩いて確認する（道幅・危険な箇所等の周辺の様子・避難にかかる時間）。

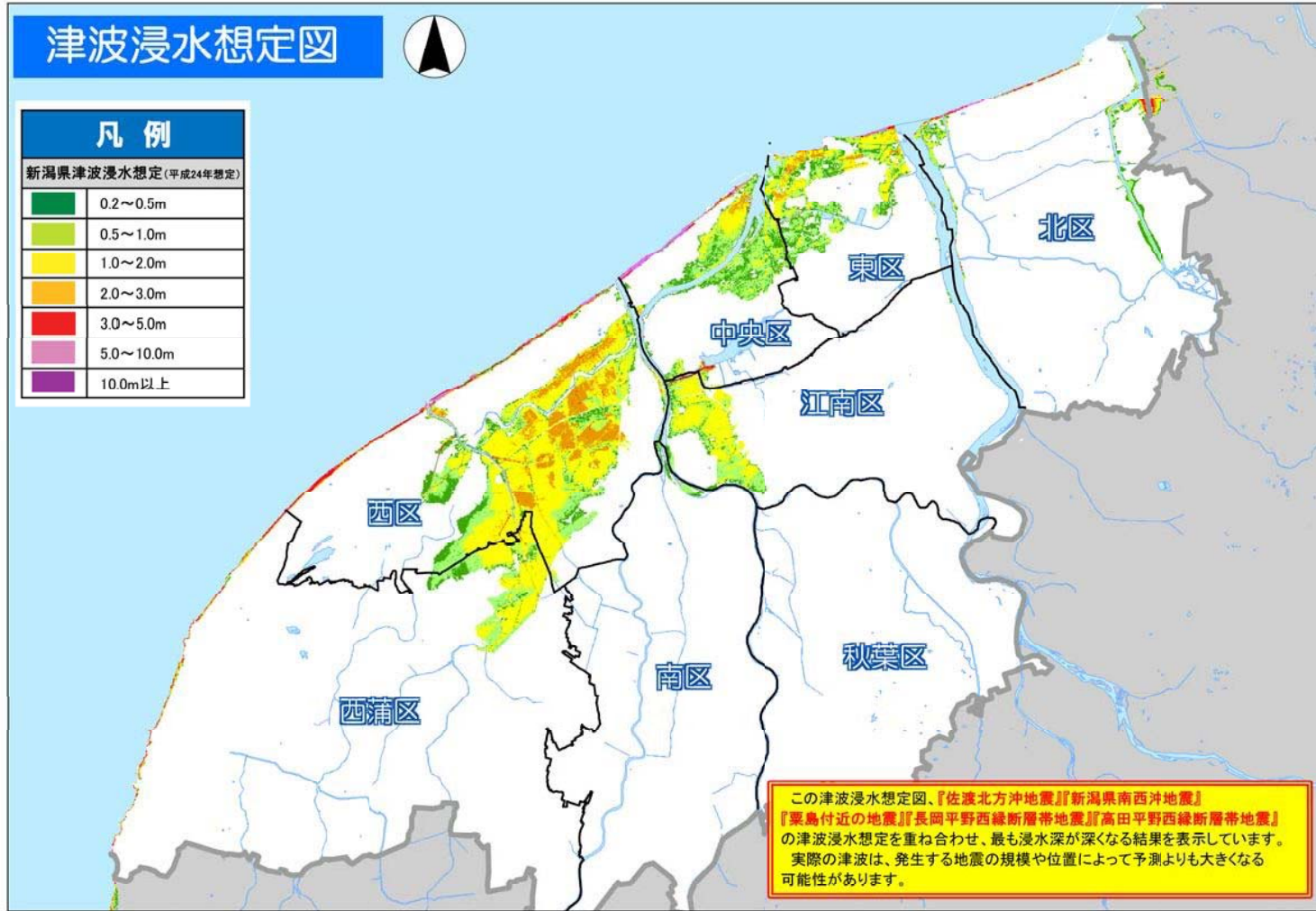
「より高く・より遠くへ」 ゆれが収まったらとにかく少しでも高く、遠くへ避難しましょう

# 津波浸水想定図



## 凡例

新潟県津波浸水想定(平成24年想定)	
0.2~0.5m	0.2~0.5m
0.5~1.0m	0.5~1.0m
1.0~2.0m	1.0~2.0m
2.0~3.0m	2.0~3.0m
3.0~5.0m	3.0~5.0m
5.0~10.0m	5.0~10.0m
10.0m以上	10.0m以上



この津波浸水想定図、『佐渡北方沖地震』『新潟県南西沖地震』『東島付近の地震』『長岡平野西縁断層帯地震』『高田平野西縁断層帯地震』の津波浸水想定を重ね合わせ、最も浸水深が深くなる結果を表示しています。実際の津波は、発生する地震の規模や位置によって予測よりも大きくなる可能性があります。

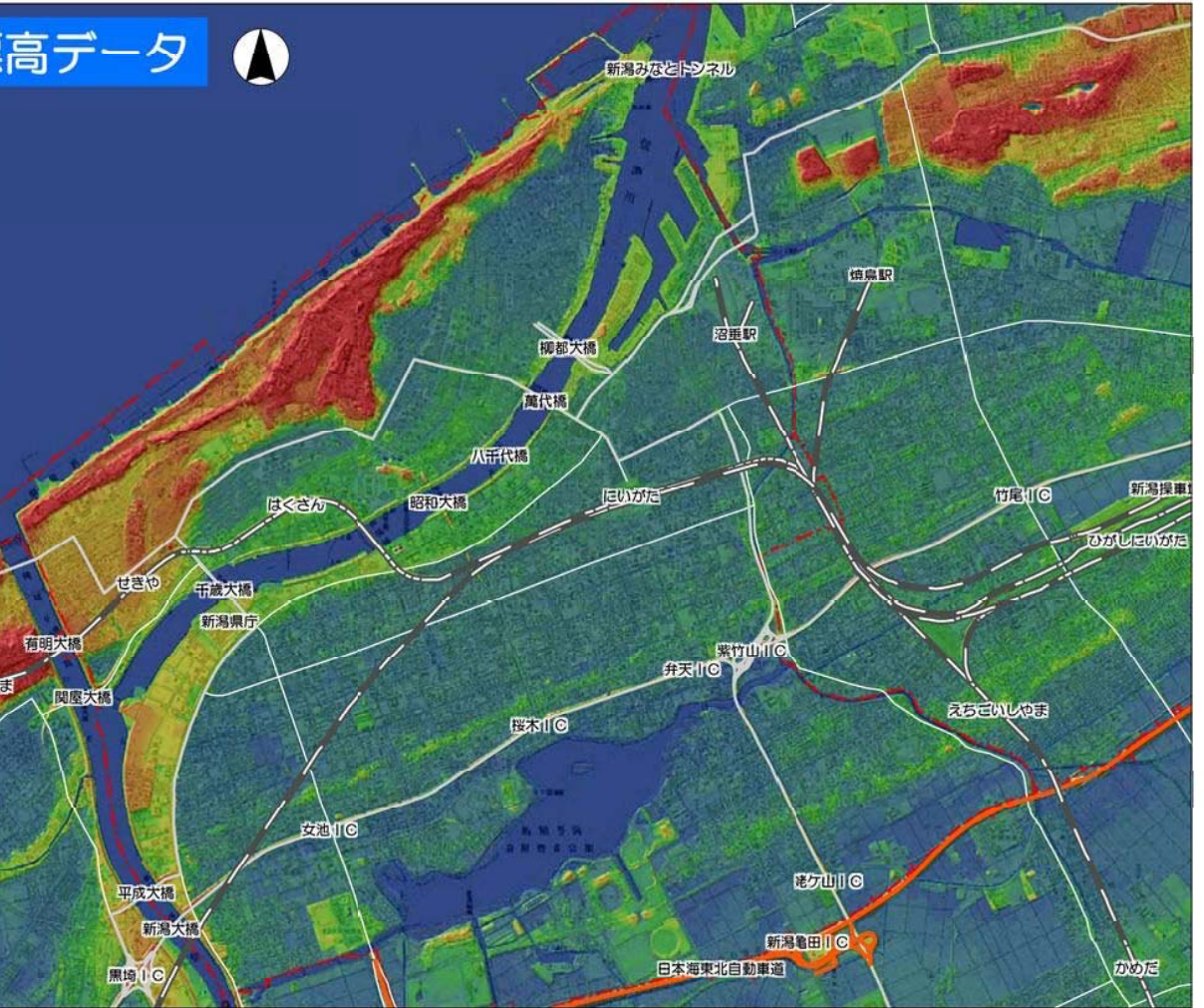
# 【中央区】標高データ



## 標高値(T.P値)

10m以上
5m
4.5m以上 5.0m未満
4.0m以上 4.5m未満
3.5m以上 4.0m未満
3.0m以上 3.5m未満
2.5m以上 3.0m未満
2.0m以上 2.5m未満
1.5m以上 2.0m未満
1.0m以上 1.5m未満
0.5m以上 1.0m未満
0m以上 0.5m未満
-0.5m以上 0m未満
-1.0m以上 -0.5m未満
-1.0m未満
水部

この地図は北陸地方整備局で整備した航空レーザープロファイルデータ、国土地理院が整備した基礎地図情報標高データを元に、新潟市が加工して作成しました。  
背景で使用している数値地図25000(地図画像)は、平成17年12月1日発行(新潟)・平成15年11月1日発行(長岡)の地図を使用しました。  
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)及び基礎地図情報を使用しました。(承認番号 平23情使、第443号)



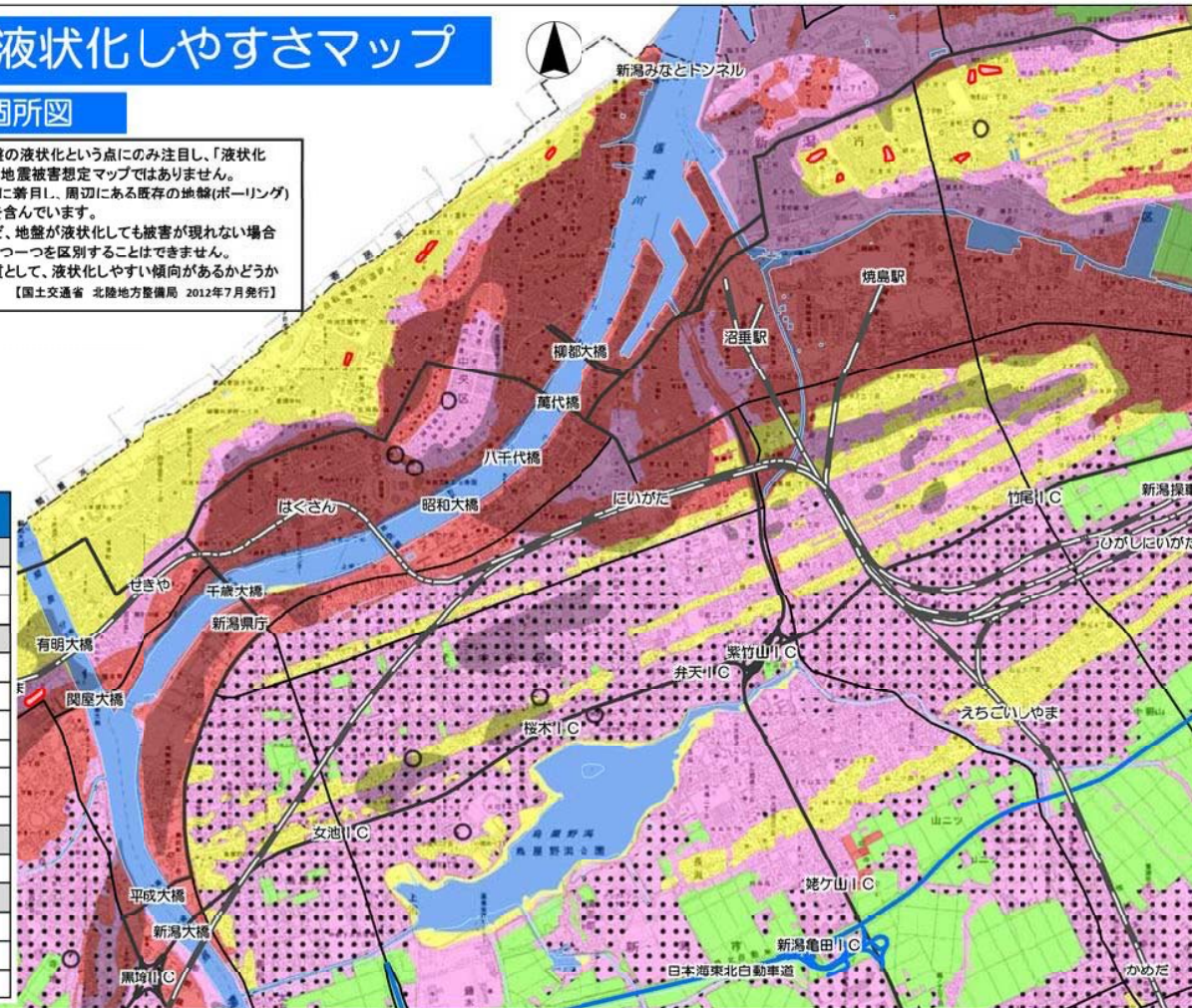
# 【中央区】液状化しやすいマップ



## 土砂災害危険箇所図

この液状化しやすいマップは、地盤の液状化という点にのみ注目し、「液状化しやすい傾向」を示したものです。地震被害想定マップではありません。液状化しやすいとされる地形条件に着目し、周辺にある既存の地盤(ボーリング)データを参照しており、多くの推定を含んでいます。液状化対策が実施された建物など、地盤が液状化しても被害が現れない場合があります。液状化対策の有無を一つ一つを区別することはできません。このマップは、あくまでも地盤の性質として、液状化しやすい傾向があるかどうかを示したものです。【国土交通省 北陸地方整備局 2012年7月発行】

凡例	
液状化履歴	
液状化履歴	液状化履歴
○	液状化履歴(点)
液状化危険度	
危険度4	危険度4
危険度3	危険度3
危険度3(盛土造成地)	危険度3(盛土造成地)
危険度2	危険度2
危険度1	危険度1
危険度0	危険度0
土砂災害危険箇所	
土砂災害危険箇所	土砂災害危険箇所
その他	
高速道路	高速道路
主要道路(国道・県道)	主要道路(国道・県道)
鉄道	鉄道



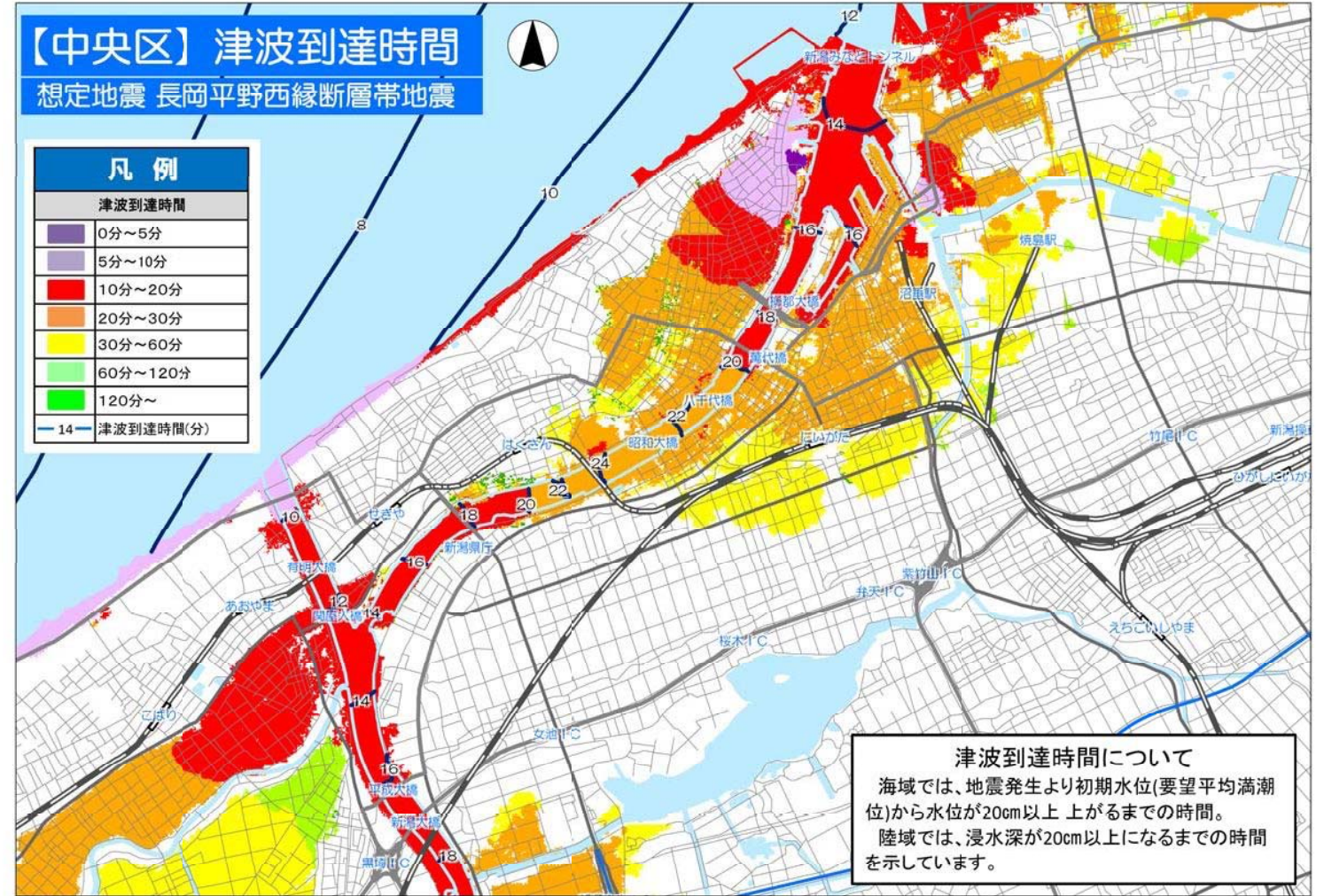
# 【中央区】津波到達時間



## 想定地震 長岡平野西縁断層帯地震

## 凡例

津波到達時間	
0分~5分	
5分~10分	
10分~20分	
20分~30分	
30分~60分	
60分~120分	
120分~	
14	津波到達時間(分)



津波到達時間について  
海域では、地震発生より初期水位(要望平均満潮位)から水位が20cm以上上がるまでの時間。  
陸域では、浸水深が20cm以上になるまでの時間を示しています。

# 中央区津波避難地図

**大きな揺れを感じたら津波に注意!!**  
**大津波・津波警報が発令されたらすぐに避難!!**

この津波避難地図は、新潟県が公表した「津波浸水予測図」をもとに、浸水想定区域や浸水の深さ、避難場所・津波避難ビル・要避難区域などを示したものです。

新潟市に来襲が予想される『佐渡北方沖地震』『新潟県南西沖地震』『粟島付近の地震』『長岡平野西縁断層帯地震』『高田平野西縁断層帯地震』の津波浸水想定を重ね合わせ、最も浸水深が深くなる結果を表示しています。地震の規模や位置によっては、想定されていない地域でも浸水する可能性がありますので、十分ご注意ください。

また、予測に不確実性が含まれることから、津波避難地図上では浸水しないが確実な避難を行うため、津波浸水想定区域の外側に避難対策区域を併せて表示しています。

## 我が家の防災メモ

津波発生時に備えて、家族で避難場所や避難ルート、連絡方法などを決めておきましょう。

### 家族の連絡先(勤務先・学校等)

氏名		氏名	
連絡先		連絡先	
電話番号		電話番号	
氏名		氏名	
連絡先		連絡先	
電話番号		電話番号	

### 緊急時連絡先(親戚・知人・病院等)

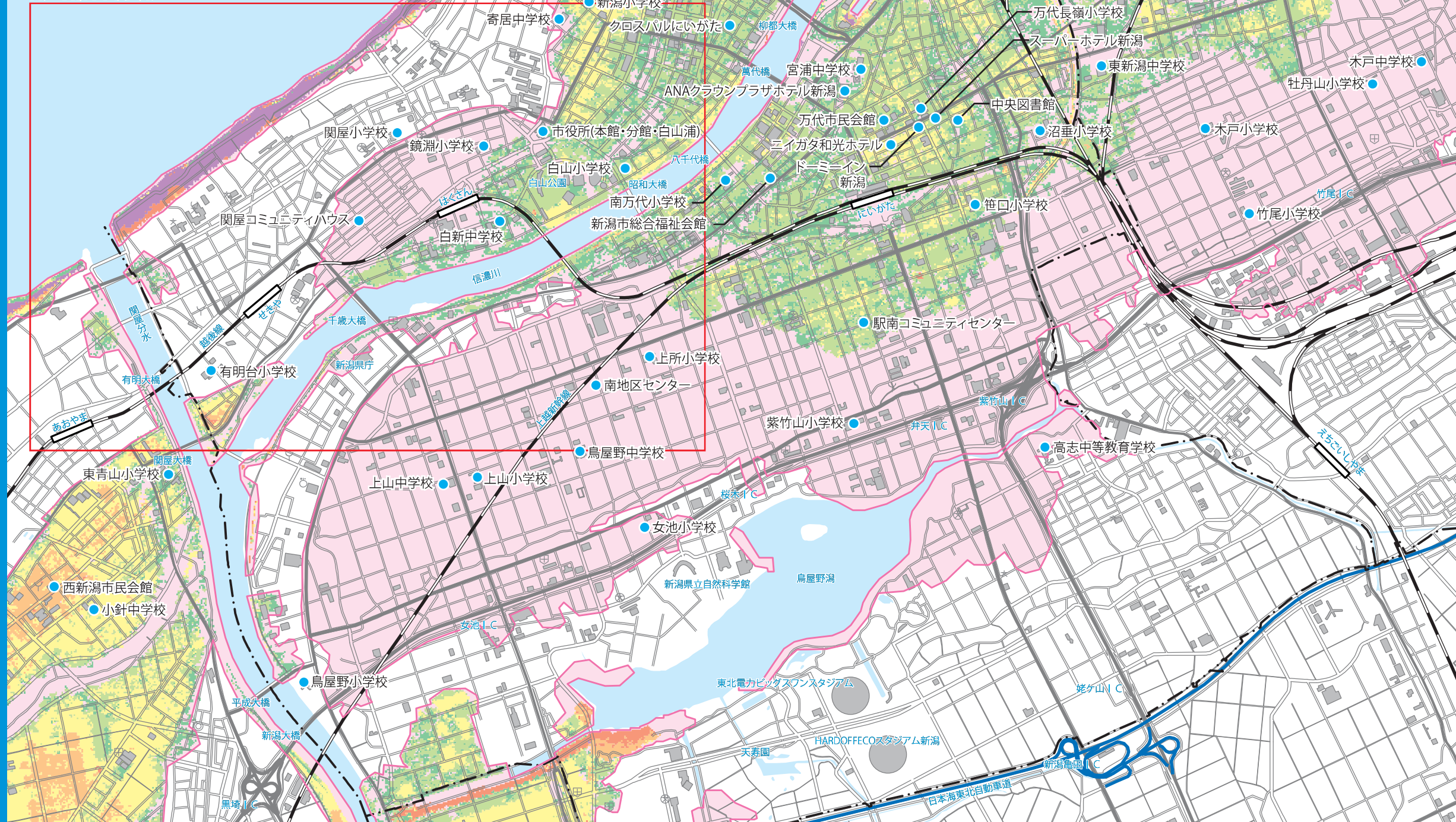
氏名		氏名	
施設名		施設名	
連絡先		連絡先	
電話番号		電話番号	

### 避難場所

集合場所	離ればなれになった時の集合場所



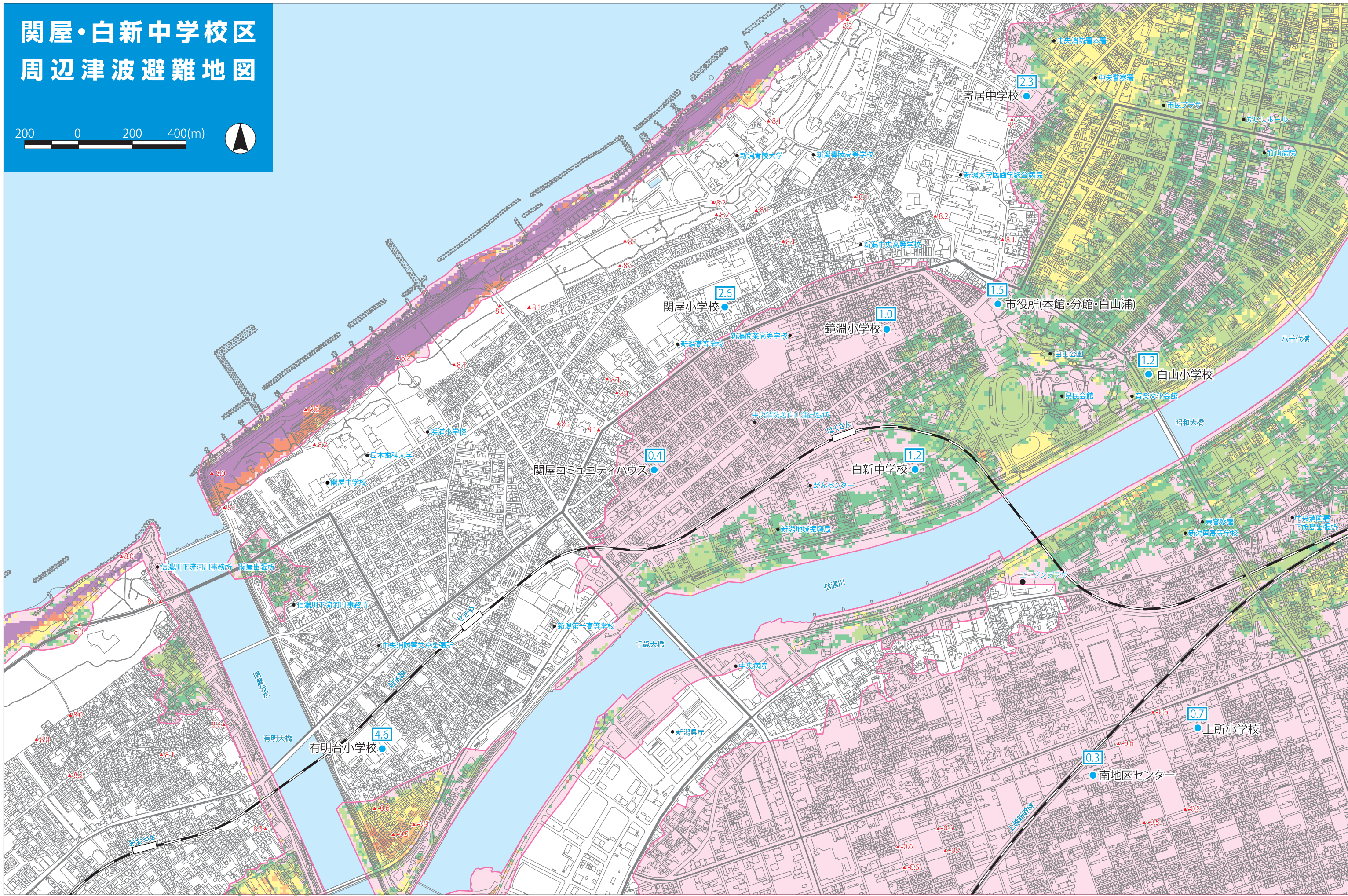
関屋・白新中学校区周辺



**凡例** 新潟県津波浸水想定(平成24年想定) **要避難区域**→ 0.2~0.5m 0.5~1.0m 1.0~2.0m 2.0~3.0m 3.0~5.0m 5.0~10.0m 10.0m以上 避難対策区域\* ●津波避難ビル 高速道路  
\*避難対策区域とは、津波避難地図上では浸水しませんが、予測の不確実性を考慮すると浸水の恐れがある区域です。確実な避難を行うため津波浸水想定区域と合わせて要避難区域としました。 — 主要道路 — その他の道路

# 関屋・白新中学校区 周辺津波避難地図

200 0 200 400(m)



**凡例** 新潟県津波浸水想定(平成24年想定) **要避難区域**→ 0.2~0.5m 0.5~1.0m 1.0~2.0m 2.0~3.0m 3.0~5.0m 5.0~10.0m 10.0m以上 避難対策区域\* ●津波避難ビル 1.0 津波避難ビルの標高(m)  
 \*避難対策区域とは、津波避難地図上では浸水しませんが、予測の不確実性を考慮すると浸水の恐れがある区域です。確実な避難を行うため津波浸水想定区域と合わせて要避難区域としました。 高速道路 主要道路 その他の道路 ▲1.0 主な標高(m)